日本WPA

環境を通じて社会に貢献する

SDGsを基軸に変化の時代に対応する

「水なし印刷による環境配慮印刷を推進する」との理念のもと活動している（一社）日本WPAは、SDGs（Sustainable Development Goals）の17の目標に対して貢献することを宣言している。環境にやさしい印刷技術を選択することで、広く社会に貢献していくことについて、田畠久義会長に話を伺った。

一般社団法人日本WPA
会長　田畠久義 氏

日本WPAは環境にやさしい団体として、2017年12月、SDGsへの取り組みを宣言し、17のゴールの中から、貢献できる目標に向けて活動していこうということになりました。

水なし印刷が可能とするSDGsへの取り組み内容の選択にあたり、ゴールとする17項目は、必ずしも自然環境の保全に関するものばかりではなく、むしろその目的は、我々の経済や社会の持続的な発展を目的にしており、貧困や経済格差、差別などをなくしていこうとする主旨を強く感じました。

そこで、17のゴールの中で、日本WPAに関係するものとして、まず、ゴール3「すべての人に健康と福祉」を掲げました。水なし印刷の最大メリットであるVOCの発生を抑えることで労働環境、働く人の健康にプラスになるということがあてはまります。

これは、水なし印刷を進めることで達成できるので、一つでも多くの工場に水なし印刷を採用していただければ、それだけVOCが減り、工場の労働環境も改善されます。まさにWPAそのものの活動だと思います。

次に、カーボンオフセット事業から、ゴール13「気候変動に具体的な対策を」を選択しました。VOCを減らしても直接的には気候変動への対策にはなりません。日本WPAでは、水なし印刷と同時にカーボンオフセットを推進することで、直接的にCO_2を削減してきました。会員各社がカーボンオフセットすることで、8月時点で削減累計は6800トンにもなっています。今後とも継続していくことで温暖化防止に貢献していきます。このカーボンオフセット事業は、地球温暖化防止活動の環境大臣賞を受賞しています。

加えて、ゴール6「安全な水とトイレを世界中に」を選択しました。温暖化は進み、水不足の地域もありますが、日本WPAはトータルとして水のことを考えている団体だからです。

ゴール8「働きがいも経済成長も」については、特に最近、会員企業から水なし印刷のもつ作業効率性について評価を頂いていることに起因します。水なし印刷を採用したことで、実労働時間が低減し、働き方改革に繋がる活動になっているとの評価を頂いています。そのため、職場環境を改善することに価値を見出していただける企業の参加が増えています。

また、ゴール9「産業と技術革新の基盤をつくろう」も該当します。湿し水を使うと、ローラの消耗が激しく、交換頻度も高くなると聞いていますし、ローラ配列の中に銅メッキローラがあり不純物がたまりやすく、その交換など作業負荷が掛ってきます。水なし印刷は、こうした課題を解決します。

ゴール12「つくる責任、つかう責任」については、危険な廃液が出ず、特別管理産業廃棄物が出ない水なし印刷にすることで、印刷物をつくる責任を全うしているということになると思います。また、10年以上経過した印刷機をリユースして水なし印刷を始める企業も増えています。古い印刷機を廃棄するのではなく、再生使用することも環境に貢献していると思います。

ゴール15「陸の豊かさも守ろう」は、森林由来のカーボンオフセットを積極的に活用することで、温暖化防止への貢献だけでなく、森林の保全につながり、森の豊かさにつながります。

また、日本WPAは毎年、脱・炭素チャレンジカップにも参加しています。昨年までは低炭素という表現でしたが、ゼロにするという

働き方改革、事業戦略として

ことで〝脱・炭素〟という表現になりました。小学生から一般企業、公共団体など社会全般にアピールする活動です。特に、今年、日本WPAとして岡山県学童保育 連絡協議会に「日本WPA最優秀未来へのはばたき賞」を贈呈しました。

コロナ禍という厳しい状況ですが、この表彰がきっかけとなって、地元からの援助が手厚くなったという話を聞いています。これも社会的貢献の一つになっていると感じます。

その他に、エコプロへも毎年出展して、水なし印刷や日本WPAの活動のアピールにつなげています。

コロナ禍になり、時代が急速に変わりつつあると感じています。日本WPAも全国組織なので、これまでは当たり前のように理事会など会議の際は、地方から東京に集まって頂いておりました。しかし、コロナ対策で初めてオンライン会議を開きました。その感触から、終息後も半分程度はオンライン会議へ切り替える予定です。それにより移動時間や移動に伴う様々な負荷も削減され、小さいことですが、SDGsに繋がっていくのかなと思います。

コロナ禍によって厳しい経営環境の中にいる企業も多いと思います。その中で、日本WPAが出来ることとして、有意義な情報発信していこうと考え、9月9日、「抗菌印刷Webのセミナー」を開催します。会員企業に限定せず、誰でも参加できるようにしました。特に、水なし抗菌印刷は、会員の中には既に採用している企業もあり、今後、ますます注目される技術だと思いますが、コスト的な課題が残っています。そうした課題にも組織として、会員を支援できる仕組みを構築できればと思っています。

SDGsに取り組む企業は環境意識が高い企業です。そういう企業へ水なし印刷をアピールしていくことは営業戦略にも繋がると思います。環境への配慮にはじまり、導入による働き方改革に至るまで、SDGsの視点から体系的にまとめて、今後も水なしを広くアピールし、SDGs戦略に役立つ取り組みとして訴求していきたいと思います。

コロナ禍で社会はかなり変わりましたが、完全には元に戻らないと言われており、変化した時代にいかに対応し、自らが変われるかが課題になると思います。

今後は様々な団体や組織ともコラボレーションした活動をして、存在感を広げていきたいと考えています。

課題	負荷低減の内容	貢献項目
大気汚染 化学物質汚染	湿し水から発生するVOCが根絶 湿し水に含まれるIPAやエッチ液など不要	13 3
地球温暖化	印刷効率改善による用紙・インキ、電気代節約、 湿し水不要による、温室効果化ガス削減 カーボンオフセットを用いた"脱炭素印刷"の実現	13 15
資源の枯渇	印刷前準備時間短縮による 用紙・インキ節約	12
水質汚濁	水質汚濁防止法の基準値を超える 湿し水廃液が出ない	6 14
廃棄物の発生	特別管理廃棄物に相当する 現像廃液が出ない	12
資機材の交換	湿し水を使わないことで印刷機内部の ローラー等資材劣化を抑制、長寿命化を実現	9
働き方改革	印刷オペレーター作業負荷削減 作業標準化の実現	8

水なし印刷によるSDGs貢献項目